



REAL LOGISTICS

Being Group

2021年12月期第2四半期 決算説明資料

株式会社ビーイングホールディングス
(東証 市場第二部 9145)

2021年8月13日

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

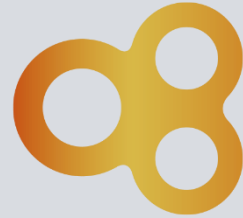
今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新・改訂を行う義務を負うものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

※端数の処理について、単位未満を切捨て、パーセントは小数点第一位未満を切捨てとしております。

※当社は、2020年12月15日に東京証券取引所市場第二部に上場したことにより、第2四半期の業績開示を2021年12月期から行っているため、2020年12月期第2四半期の数値並びに2021年12月期第2四半期の対前年同期増減率について決算短信では記載しておりませんが、本資料では参考値として記載しておりますことご承知おきください。

- I ... 会社概要
- II ... Topic
- III... 2021年12月期第2四半期連結業績実績
- IV... 2021年12月期連結業績予想



REAL LOGISTICS
Being Group

I

会社概要

- ・ 4つの特長
- ・ 3つの成長戦略

社名	株式会社ビーイングホールディングス 【英文名】 BEING HOLDINGS CO.,LTD.
本社	金沢本社 石川県金沢市専光寺町レ3-18 TEL : 076-268-1110 / FAX : 076-268-6631 東京本社 東京都千代田区大手町1-1-1大手町パークビルディング7階 TEL : 03-6259-1830 / FAX : 03-6259-1831
代表者	代表取締役社長 喜多 甚一 (キタ シゲカズ)
設立	1986年9月17日
資本金	639,421千円
従業員数	連結922名 (1,066名) (2021年6月末現在) 従業員数は就業人員 (当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。) であり、臨時雇用者数 (パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。) は、最近1年間の平均人員を () 外数で記載
事業内容	グループ会社の経営管理 ビーインググループ 物流事業 物流センター運営、コンサルティング業務 その他 旅客事業等

グループ企業

	名称	事業内容	資本金	議決権の所有割合
①	(株)アクティー	物流事業	80百万円	100.0%
②	(株)福井アクティー		30百万円	100.0%
③	(株)東京アクティー		80百万円	100.0%
④	(株)コラビス		80百万円	100.0%
⑤	(株)A 2 ロジ		5百万円	51.0%
⑥	(株)横浜 L S P ※1		10百万円	100.0%
⑦	(株)オリエンタル	旅客事業	10百万円	100.0%
⑧	(株)G a p p a	システム開発	5百万円	100.0%
⑨	(株)ベプロ	保険代理業	3百万円	100.0%
⑩	(株)田川自動車	自動車整備業	6百万円	100.0%
⑪	北陸物流効率化事業協同組合	燃料販売業	0百万円	35.71% (28.57%) ※2 ※3

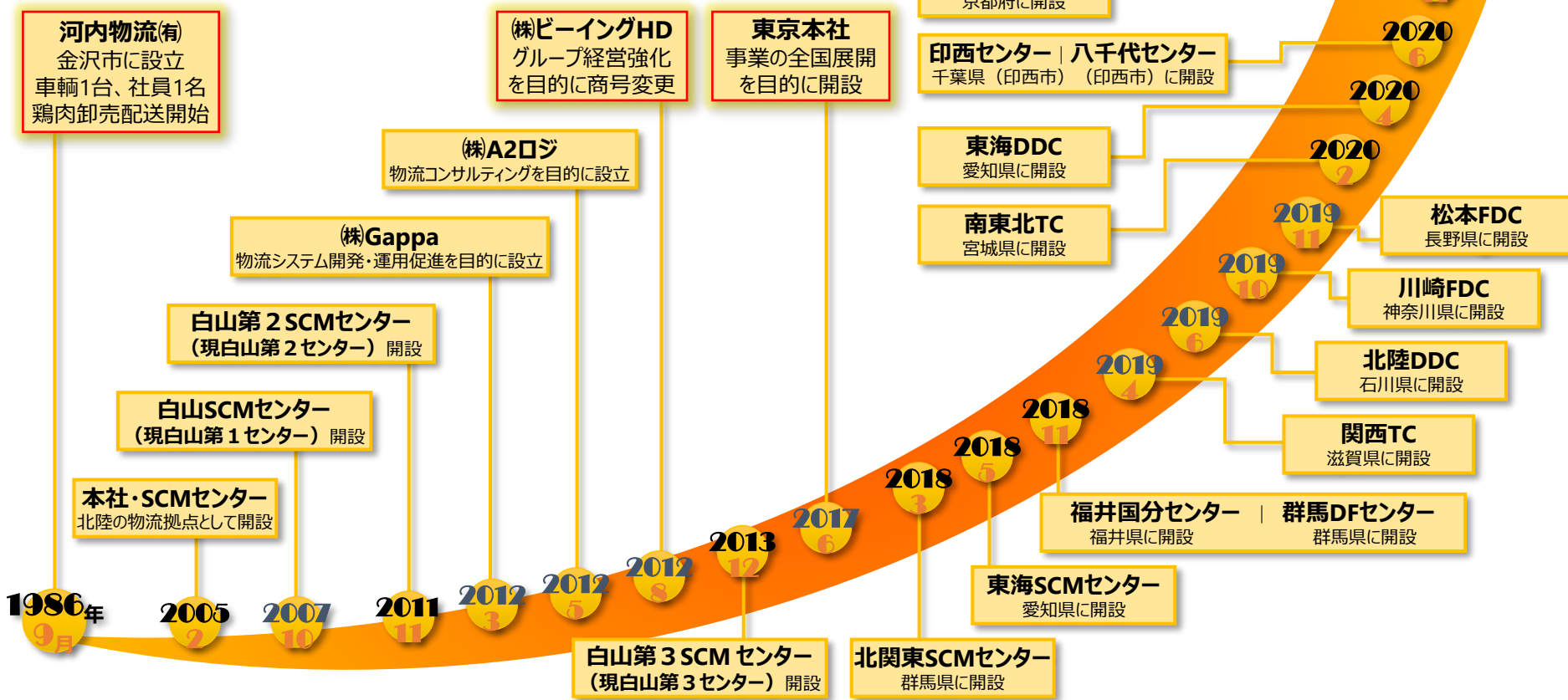
※1 2020年10月1日付で石井運輸(株)より商号変更

※2 議決権の所有割合の () 内は、間接所有割合で内数

※3 議決権の所有割合は100分の50以下であるが、実質的に支配しているため子会社としたもの

成長の軌跡

ロジスティクスの6つの機能、
輸送・保管・包装・荷役・流通加工・情報システムを
 自社で一貫して手掛けることで
 日本における物流事業を独自に開拓



運送
事業

卸の物流センター下請から卸・小売向け3PL事業へ
 北陸から東海・関西地方へ事業エリア拡大

関東地方へ、そして全国展開
 同業他社へ3PL事業をプロデュース【4PL】も展開

北陸に強い基盤を築き、東北から関西まで

■ **17** 都府県 **48** 物流拠点 ● 自社所有 | **5**センター

○ ……の中の数字は各都府県の拠点数を示す

■ 従業員数 **1,988**名

■ 輸送力 **1,021**台
(内、自社車両 308台)

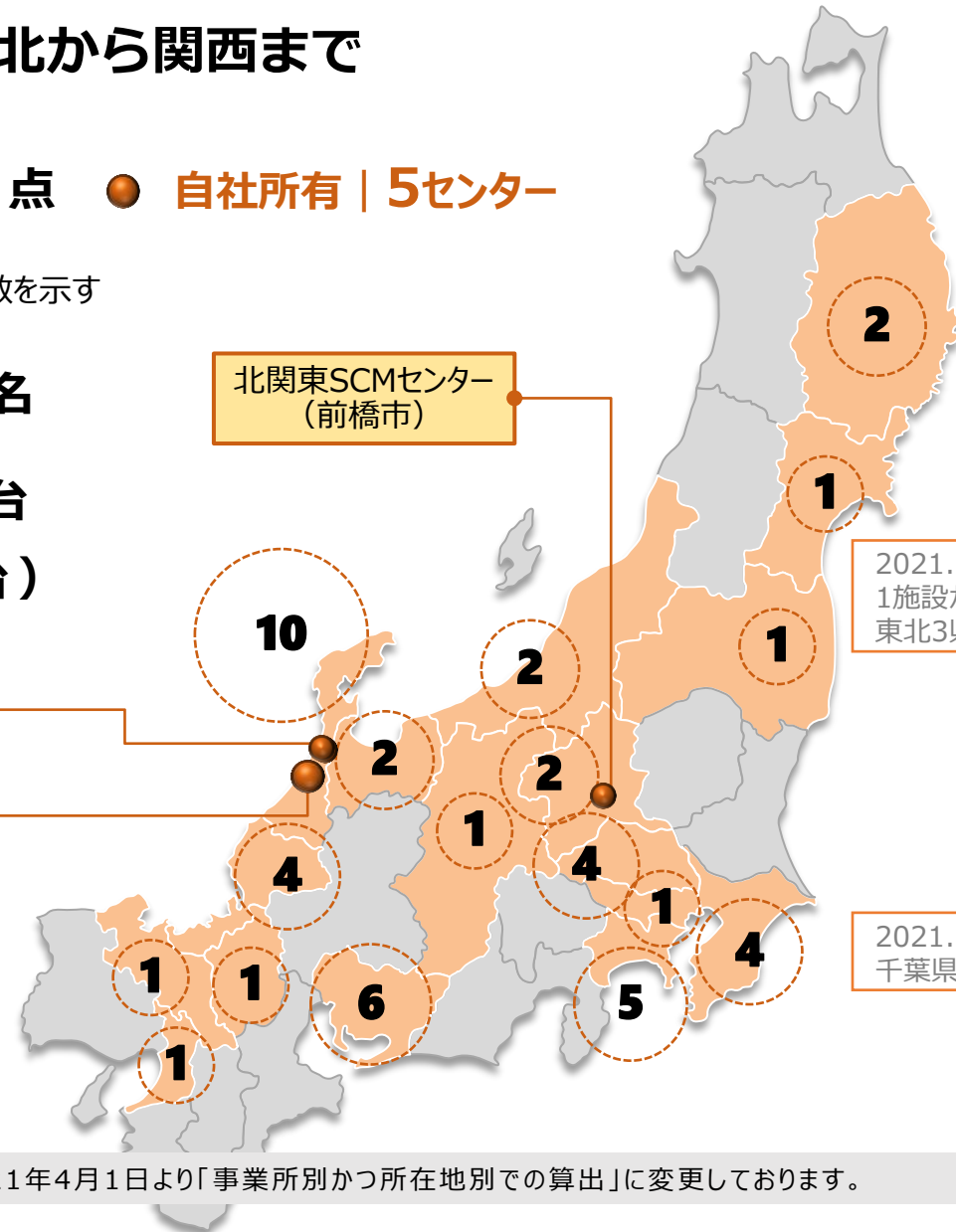
金沢SCMセンター
(金沢市)

白山第1・第2・第3センター
(白山市)

北関東SCMセンター
(前橋市)

2021.5.20
1施設から分割し
東北3県で3施設稼働

2021.2.22
千葉県で1施設稼働



◆2021年 6月末時点

※拠点数については、「所在地別での算出」から、2021年4月1日より「事業所別かつ所在地別での算出」に変更しております。

1 6機能すべてを自社で担うリアル・ロジスティクス・カンパニー

輸送、保管、包装、荷役、流通加工、更に**情報システムを自社開発**一元化する「**3PL事業**」が主軸。さらに3PL事業をプロデュースしサプライチェーン全体を管理する「**4PL事業**」を、グループ連携を図り同業他社へ展開

2 小売・卸売事業者向け3PL事業に注力

取り扱う商品は**生活物資に特化**。3温度帯(冷凍・冷蔵・常温)の食品、医薬品、化粧品、日用品の**小口物流に強み**を持ち、卸売企業及びコンビニエンスストア、スーパーマーケット、ドラッグストアの物流センター運営を受託

3 「運ばない物流[®]」「見える物流」で ロジスティクスの合理化・全体最適化を実現

メーカー、卸売、小売間で実施する拠点間配送、在庫管理、検品などを拠点物流センターに集約し、自社開発の管理システム「**Jobs**」を駆使し収集した情報を顧客と共有し、構内・配送業務の徹底した合理化により全体最適化を実現

特長1 経営資源の
集中投資

生活物資
に特化

特長3

見える
物流

同一情報を同時に
顧客とも共有

ロジスティクスの
合理化・全体最適化

無いものは自分たちでつくる

現場力

特長4

人を補助する
仕組み作り

特長2 運ばない
物流

TASKを無くす
仕組み作り

関東から
全国への展開
を見据えた
物流基盤の構築

成長
戦略 **1**

既存顧客内での
当社
シェアアップ
に注力

成長
戦略 **2**

量の拡大と質の変革
長期成長イメージ

成長
戦略 **3**

ロジスティクスの創造的革新に向け

「量」の拡大と「質」の変革で挑む

「小売りビジネスの物流プラットフォーム」
目指す

「データネットワークセンター」
構築

- モノに関する様々なデータを収集・管理・分析し、サプライチェーンに携わる事業者同士を繋げ、クラウド上で管理

- 3PL事業をプロデュースしてサプライチェーン全体を管理する「4PL」事業及び、「DXプラットフォーム」を同業他社へ提供

「質」
の
変
革

サプライチェーンの
全体デザイン力拡充する

技術・システム
開発

- 拠点間物流を合理化

3PLビジネスの
スピーディーな拡大

エリア
拡大

M&A

顧客
拡大

ハンASET
化

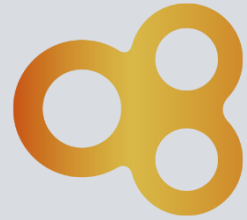
「量」
の
拡
大

研究開発

AIやIoTを使った省力化設備や高生産性・高品質の業務フロー
DtoC、オムニチャネルに対応する物流ビジネス

現在

将来



REAL LOGISTICS
Being Group

II

Topic

■ 2021年2月22日、千葉県（芝山町）に新センター「成田TC」稼働



- 関東エリアの業務拡大への対応を目的として、千葉・茨城エリアにおける食品・雑貨の輸送センターの運営

■ 2021年3月17日、福井県（永平寺町）で新物流拠点 自社センター着工



- 福井SCMセンター（仮称）、2021年9月末竣工予定 | 今後も福井エリアで顧客の新規出店が見込め、新たな業務拡大に向けて、既存の福井センター、福井DCの機能を本センターに統合して業務効率を向上



完成予想パース	倉庫内温度	常温・チルド・冷凍
	構造	鉄骨3階建、高床バス
	延べ床面積	7798.57㎡
	総工費	15.9億円

■ 2021年5月20日、岩手県（北上市）に「北上TC」、福島県（本宮市）に「郡山TC」、宮城県（多賀城市）に「仙台TC」の東北で3センター稼働



- 既存の南東北TCを分割し、3センターを稼働。配送先までの移動距離も短縮され、全体の業務効率化

※TCとは、Transfer Centerの略であり、倉庫内に在庫を持たない通過型物流センターのこと

Topic 運ばない物流® を商標登録

■ 物流システムの改善案として提唱してきたキャッチコピーの一つ「運ばない物流」を 2021年4月23日、特許庁に商標登録

「運ばない物流」 | 物流事業における発想の転換

「いかに**効率的**にモノを運ぶか」 ⇒ 「いかに**合理的**にモノを運ばないか」

- 納品時間、場所、数量が適切となるようコントロールして運ぶ考え方
- メーカー、卸売業、小売業などの事業者が実施する配送、在庫管理、出荷作業などを1カ所の物流拠点に集約
- 構内作業工程や配送業務の徹底した合理化によってモノの移動が最低限となるよう全体最適化

従来の物流

メーカーや小売りなど事業者ごとに物流センターを持つことで、センターごとに出荷作業や運送を行うため**コスト**が増え、商品が消費者に届くまで**時間**も掛かった



運ばない物流

- サプライチェーンに携わる事業者の物流センターを集約することで、モノの移動や管理などにかかる**コストを分配・低減**し、どのような社会情勢でも必要とされる生活物資を消費者に**適正な価格で還元**
- 拠点間の輸送削減による**車両のCO₂排出の削減**にもつながる → **SDGsの実現の一環**

物流センター



- ビーインググループの6社24事業所が、国土交通省が創設した「働きやすい職場認証制度（運転者職場環境良好度認証制度）」の2020年度の一つ星事業者に登録された。2020年度が初めての認証



「働きやすい職場認証制度」について

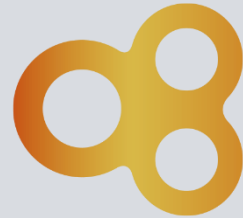
自動車運送事業者の働き方改革への取り組みなどを「見える化」して職場の働きやすさを評価するもの。求職者が安心して就職・就労し、事業者は安定的にドライバーを確保できるように後押しすることを目的とする。

認証登録日：2021年5月14日～6月7日（事業所により異なる）

登録事業所：物流事業のうち配送業務を行う20事業所、および、旅客事業を行う4事業所の計24事業所
※対象となる全事業所

審査項目：① 法令遵守等 ② 労働時間・休日 ③ 心身の健康 ④ 安心・安定 ⑤ 多様な人材の確保・育成

認証機関：一般財団法人日本海事協会（国土交通省指定）



REAL LOGISTICS
Being Group

Ⅲ

2021年12月期第2四半期

(2021年1月～6月)

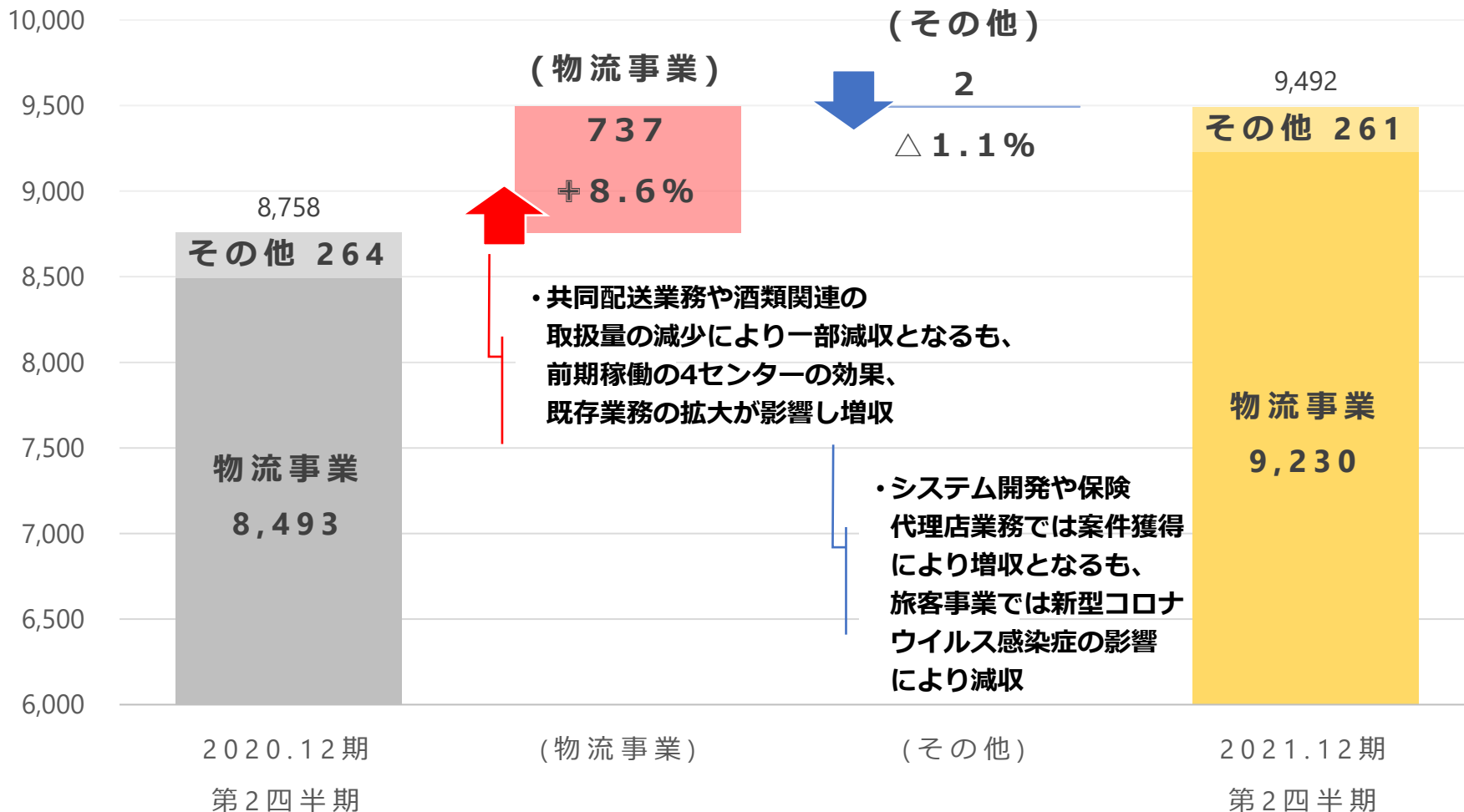
連結業績実績

2021年12月期第2四半期 損益状況（前年同期比）

[百万円]	2020年12月期 第2四半期 実績		2021年12月期 第2四半期 実績		前年同期比	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率
営業収益	8,758		9,492		＋734	＋8.3%
営業原価	8,043	91.8%	8,433	88.8%	＋390	＋4.8%
営業総利益	714	8.1%	1,059	11.1%	＋344	＋48.1%
販管費	495	5.6%	551	5.8%	＋55	＋11.2%
営業利益	218	2.4%	507	5.3%	＋288	＋131.9%
営業外収益	49	0.5%	53	0.5%	＋3	＋6.7%
営業外費用	20	0.2%	18	0.2%	△1	△5.8%
経常利益	248	2.8%	541	5.7%	＋293	＋118.0%
特別利益	10	0.1%	2	0.0%	△8	△76.3%
特別損失	5	0.0%	-	-	△5	△100.00%
法人税等	106	1.2%	164	1.7%	＋57	＋53.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	127	1.4%	359	3.7%	＋231	＋181.3%

2021年12月期第2四半期 損益状況 | 営業収益増減要因分析

[百万円]	2020年12月期 第2四半期 実績	2021年12月期 第2四半期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
営業収益	8,758	9,492	+734	+8.3%



2021年12月期第2四半期 損益状況 | 営業利益増減要因分析

[百万円]	2020年12月期 第2四半期 実績		2021年12月期 第2四半期 実績		前年同期比	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率
営業利益	218	2.4%	507	5.3%	+288	+131.9%



- **物流事業の営業収益増加**

- 前期稼働の4センターの効果で取扱量増加による
- 既存業務の拡大により取扱量、配送業務の増加による

- **物流事業の営業原価率改善低減**

- 自社従業員比率を向上させ、派遣従業員の使用削減
- 生産性管理システムで作業工程を見直し、労働時間削減

- **その他事業の営業収益減少**

- 旅客事業、停滞
- 燃料販売業、燃料単価下落

- **その他事業の営業原価率悪化**

- 旅客事業、原価圧縮も営業収益減少の影響大



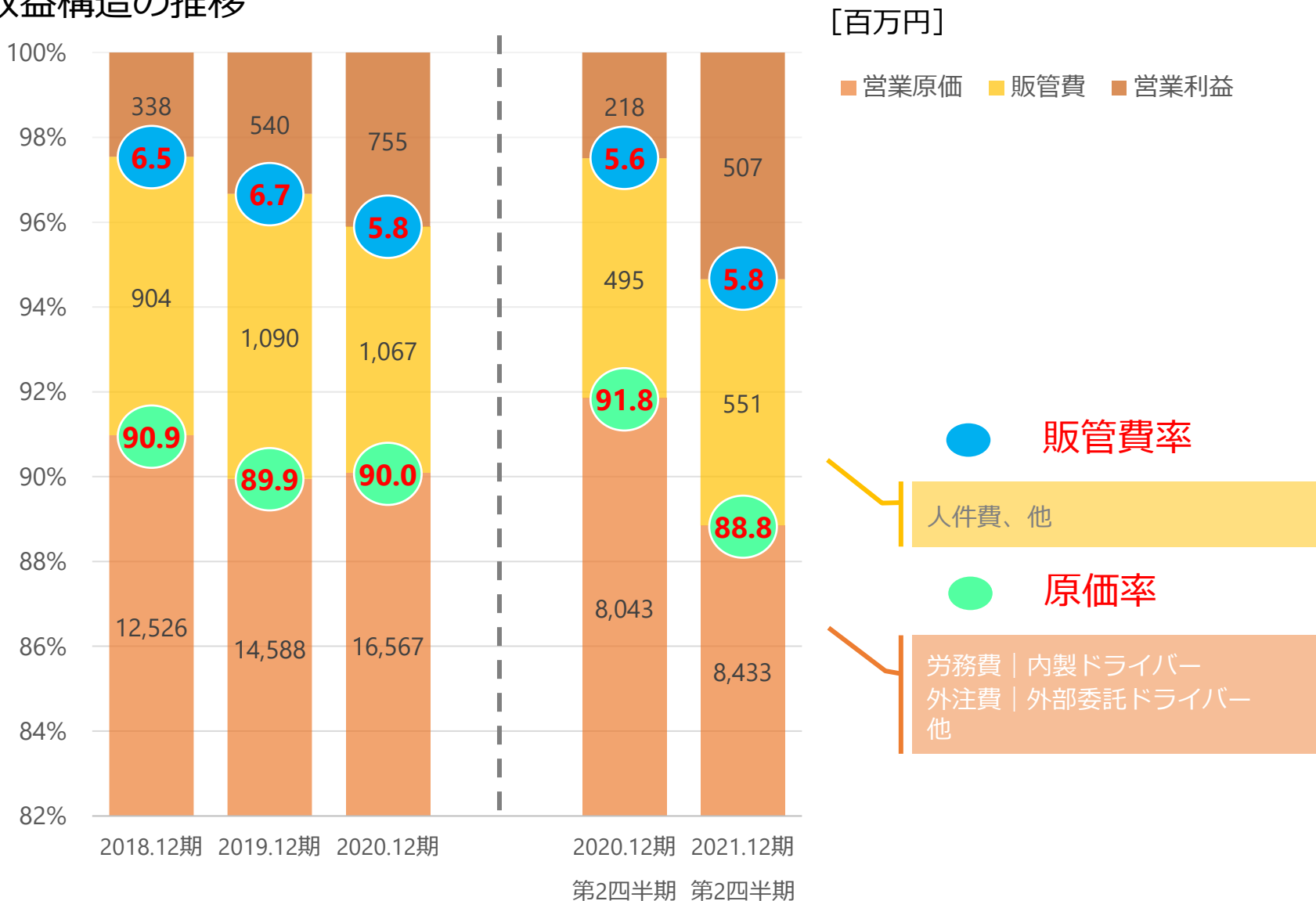
2020.12期
第2四半期



2021.12期
第2四半期

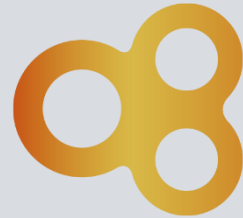
2021年12月期第2四半期 損益状況 | 収益構造

収益構造の推移



2021年12月期第2四半期 財務状況（前期末比）

[百万円]	2020年12月期末		2021年12月期 第2四半期末		前期末比		主な増減要因
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
流動資産	6,978	51.3%	5,363	44.3%	△1,614	△23.1%	・ 現金及び預金 △1,310
固定資産	6,623	48.6%	6,737	55.6%	+114	+1.7%	・ 建物及び構築物 △80 ・ リース資産 △108 ・ 建設仮勘定 +246
資産合計	13,601	100.0%	12,101	100.0%	△1,500	△11.0%	
流動負債	5,005	36.8%	4,277	35.3%	△727	△14.5%	・ 営業未払金 △312
固定負債	5,083	37.3%	4,069	33.6%	△1,014	△19.9%	・ 長期借入金 △880
負債合計	10,089	74.1%	8,347	68.9%	△1,741	△17.2%	
純資産合計	3,512	25.8%	3,753	31.0%	+241	+6.8%	・ 利益剰余金 +244
負債・純資産合計	13,601	100.0%	12,101	100.0%	△1,500	△11.0%	
自己資本比率	24.8%		29.9%		+5.0pt.		



REAL LOGISTICS
Being Group

IV

2021年12月期

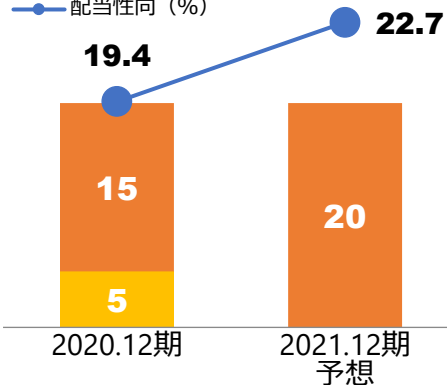
連結業績予想

2021年12月期連結業績・配当予想

■ 期初予想から変更なし

[百万円]	2020年12月期 実績		2021年12月期 予想		前期比		2021年12月期 第2四半期 対通期予想進捗率		(参考) 2020年12月期 第2四半期 対通期実績進捗率	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率		実績額	実績額	実績額
営業収益	18,390		19,500		+1,109	+6.0%	48.6%	9,492	47.6%	8,758
営業利益	755	4.1%	800	4.1%	+45	+5.9%	63.4%	507	28.9%	218
経常利益	795	4.3%	820	4.2%	+25	+3.0%	66.0%	541	31.2%	248
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	470	2.6%	500	2.6%	+30	+6.2%	71.9%	359	27.1%	127
1株当たり 当期純利益 [円]	103. ⁰⁴		88.¹⁰							

■ 普通配当 (円) ■ 記念配当 (円)
● 配当性向 (%)



配当基本方針

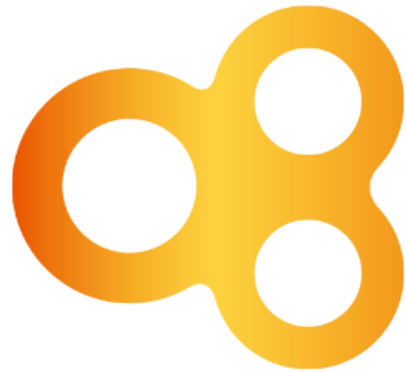
- 株主還元を経営上の重要な課題と認識
- 業績や事業拡大に向けた資金需要に対応した内部留保の確保を総合的に勘案

連結配当性向30%を目安・長期的に安定した配当を継続

内部留保資金

借入金返済等の財務体質の強化・戦略的な成長投資

企業価値向上に努める



REAL LOGISTICS

Being Group